

東日本大震災・連盟災害対策本部ニュースレター

= 祈りのきずな =

5月17日現在までの震災に関するニュースです。連盟の災害対策に関する情報は、連盟ホームページにて日々更新しています。

<http://www.bapren.jp/>

「被災地からの報告」集会

5月9日（月）午後7時より「被災地からの報告」集会が連盟事務局で開かれ、90名を超える参加者が集った。仙台の3教会、郡山や盛岡の各教会の報告に耳を傾け、これまで各地方連合の協力を得て展開されてきた連盟の災害対策支援報告に直接触れて、祈りと思い新たにされる機会となった。

南光台教会の井形英絵牧師は、教会が地域の避難者を一時期受け入れたり、津波被害の蒲生地区の避難所に関わってきた経験を語りつつ、教会は「誰と生きようとしてきたのか」が問われていること。「なぜ、神はこのような災害が起こされたのか？」と神を主語にする言葉はなかなか語れないけれども、ちょうど避難節の中を、「意味の分からない死を死なれた、十字架のイエスにしがみつながら」歩むことのできる幸いと希望を語られた。

大富教会の伊東信吉さんの報告は、荒浜や石巻の被災状況、長町に建築中の仮設住宅の写真などを交えて臨場感あるものであった。若林地区の消防署の八巻正之さん（仙台教会員）や牡鹿半島の鮎川地区で展開されたある宣教団のトニー・ウッズ宣教師の働き、また震災以降、ボランティアの宿泊場所として教会を提供してきた働きに触れながら、今後の仙台地区での支援活動の課題と展望を語られた。



仙台北教会の金丸真牧師は、この

4月に福岡有田教会から赴任したばかりであるが、同じ市内でも地域によって被災の状況は様々であり、そのギャップの中で困惑し、心を痛めている教会員たちが、礼拝によって何とか立つことができていた状況を語られた。「教会としていったい何ができるのか？」との問いを抱えながら、福岡地方連合の兄弟姉妹たちから祈りと共に託された「スクーター募金」を用いて軽トラックを購入し、地域に関わっていききたいという思いを語られた。

郡山コスモス通り教会の鈴木牧師は、地震や津波の被害とはまったく異なる、見えない放射能被害と日々向かい合っている現状を語られた。今、郡山のハローワークでは原発のがれき撤去の求人票が出ているという。すべてのものを失い強制避難さ

せられてきた人たち

入を補うために、原発事故の後始末の仕が差し出されている実態。また、文科省が明確な指針を出さないために、学校の対応は混乱し、学校では未だ放射能が残っている校庭に子どもたちを出してよいのか、給食で福島県産の牛乳を飲ませるかどうかを、親に問うてくる。その一つ一つの決断を強いられる、親として葛藤と苦悩がある。しかし、それは決して福島だけの課題ではなく、日本全国どこでも起こりうる課題であり、連盟全体で一緒に考えてほしいという呼びかけが最後になされた。



盛岡教会の大須賀真人牧師・綾子

牧師からは、レポートの代読という形ではあったが、津波被害の復旧に地域格差がみられる岩手県の状況があること、その中で盛岡教会が、教会の子どもプログラムに参加している2家族のつながりを通し、顔と顔とが見える形での支援活動に地道に取り組んでいる様子が報告された。

これからの支援活動

首都圏から長距離の支援物資搬送や炊き出しのボランティアを派遣する支援の形には限界があるため、被災地に「拠点」を設けて「専任スタッフ」を立てていく活動形態に、できるだけ早く切り替えていくことを模索している。また、すでに被災地の教会がそれぞれ始めておられる支援活動をより良い形でサポートできる体制を整えていきたい。

（災害対策副本部長・加藤誠）

盛岡と共に ～北海道バプテスト災害対策委員会報告

石橋大輔（札幌）

北海道連合では、震災直後、函館より福田雅祥師（函館美原）を現地に送り、青森・岩手の7教会を訪問、翌週には福田師・全皓燮師（平岸）によって支援物資が届けられ、4月に第3派として全師・田代仁師（苫小牧）・田中信矢師（札幌新生）が盛岡教会を中心に現地入りしました。そして連合として災害対策委員会を立ち上げ、今回その第一陣として高橋周也（青森）、原田恵雨（札幌）、石橋大輔（札幌・対策委員）の三名で盛岡へ出発（5/6～10）。今回の旅の当初の目的としては「現地」の盛岡教会、特に大須賀真人牧師・綾子牧師夫妻を励まし、その活動をバックアップするというものでした。

そういうわけで、盛岡では大須賀牧師家族を筆頭に、教会の方々との交流（遊び）に徹しました。教会との繋がりを持たれている支援者も含めてバーベキューをしたり、青年たちとソフトボールをしたり、緊張した日々を送ってこられた方がたとしばしホッと一息できる時を持つことができました。母の日を共に過ごしましたので、牧師長女のAちゃんと即席教会学校をし、礼拝の中では盛岡教会の青年たちも一緒に特別讃美をすることができました。また、ちょうどその日の午後が記念すべき第一回として予定されていた青年の聖書勉強会にも一緒に参加させてもらい、共に御言葉から学ぶ時も与えられ、感謝でした。その中でも特に嬉しかったことは、大船渡に届けることになっていた布団のセットを、青年たちと「一緒に」行えたことです。

月曜は、前日にセットした布団の一部を大船渡へと届けました。大船渡のある旧校舎を間借りしているT高校の教職員のご家族に布団を届けましたが、「現在の在籍生徒は523名ですが、その中には行方不明の生徒も含まれています」との先生の言葉が重く響きました。このようにして、盛岡教会では既に、いくつかの繋がりの中で、教会としてできる支援をコツコツと行っておられます。

ただし、盛岡教会は海岸部の被災地との距離があまりにもありすぎる（100km以上の山道の移動が必要）上に、岩手県内には連盟の教会は一つだけです。遠野などに既に拠点を構えて活動を展開している他派の教会やNGO団体とも協力をしながら、北海道連合としては、盛岡教会だけに負担をかけないように、東北連合・連盟とも協力し、同じ「チーム岩手」の一員として携わっていく道を探っていきたいと考え、動き始めています。



◎母の日礼拝での讃美、盛岡の青年・小学生と共に



◎礼拝後、共にカレーを作っていました

【東日本大震災緊急救援募金のお願い】5月17日現在募金総額61,430,000円（内、海外から23,330,000円）が寄せられています。

送金先：郵便振替 00140-9-180881 「宗教法人日本バプテスト連盟総務部」

※「東日本大震災募金」と明記してください（「東北地方太平洋沖地震募金」「東北関東大震災」でも結構です）。

※募金は極力、教会単位で送金ください。海外からの募金は別口座になります。総務部までお問い合わせください。

募金（目標総額5000万円）の使途の目安は次の通りです※

- ①被災教会・教会員へのお見舞い／教会建物支援… 1500万円
- ②被災地支援…………… 2500万円
- ③現地スタッフ／ボランティア活動費、事務局費… 1000万円

